

# 【三鷹市おおさわ学園視察報告】

資料 5

日時 2022年06月27日（月） 14:00-16:00

目的 二宮町における施設分離型小中一貫教育の開始に向けて、先進事例である「おおさわ学園」の取り組みを視察する。

視察先 三鷹市おおさわ学園第七中学校（東京都三鷹市大沢2丁目11番12号）

出席者

三鷹市教育長	貝ノ瀬 慈
おおさわ学園長 第七中学校長	勝野 能光
おおさわ学園 大沢台小学校長	蔵野 貴道
おおさわ学園 羽沢小学校長	高橋 奨
教育部総合教育政策担当部長	松永 透
教育部総合教育政策担当課長	斎藤 将之



参加人員

1号車：村田町長、森教育長、椎野部長、野谷先生、岡野敏彦、小熊さん  
2号車：北川校長、中西校長、下條課長、田中先生、渡辺優子、藤原直彦  
3号車：伊庭校長、新井教頭、山口教頭、安藤先生、高橋梓（敬称略）



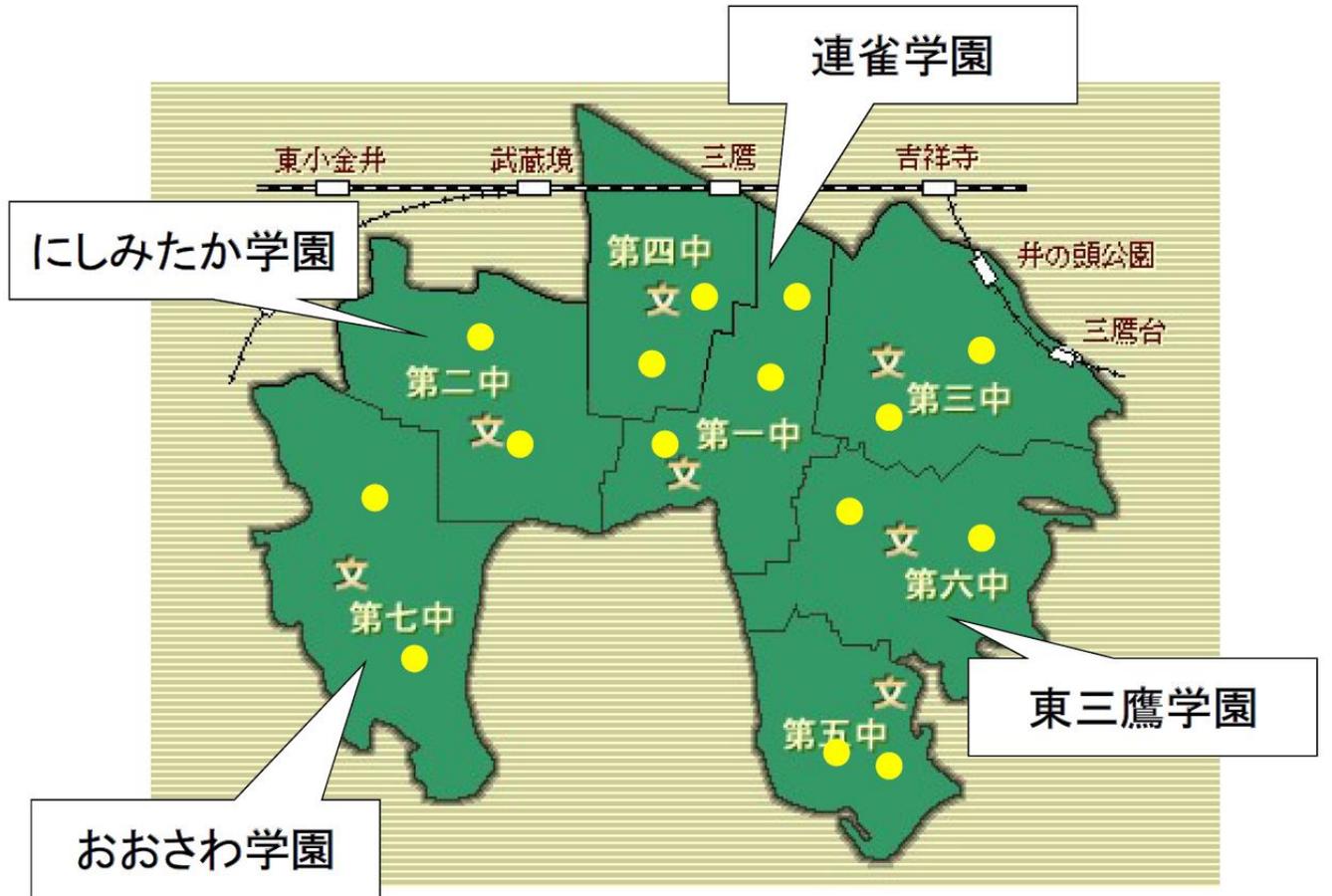
二宮町の皆さま  
本日はようこそおおさわ学園へ

# おおさわ学園

コミュニティ・スクールを基盤とした  
小・中一貫教育校

学園長 勝野 能光

(三鷹市立第七中学校 校長)



# 三鷹市立小・中一貫教育校の開設

2003年 平成15年 4月 三鷹市長 小・中一貫教育構想を提言

2004年 平成16年 7月 三鷹市立小・中一貫教育校構想に関する基本方針(素案) 策定

2005年 平成17年12月 三鷹市立小・中一貫教育校開設に関する実施方策 策定

平成18年 4月 三鷹市立小・中一貫教育校「にしみたか学園」の開園

平成18年10月 第四小学校、第七中学校を市内最初のコミュニティ・スクールに指定

2008年 平成20年 4月 「連雀学園」「おおさわ学園」「東三鷹学園」の開園

平成20年度 全小中学校がコミュニティ・スクールに指定される

平成21年 4月 「三鷹の森学園」「三鷹中央学園」の開園

平成21年 9月 「鷹南学園」の開園



コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の全市展開の完了

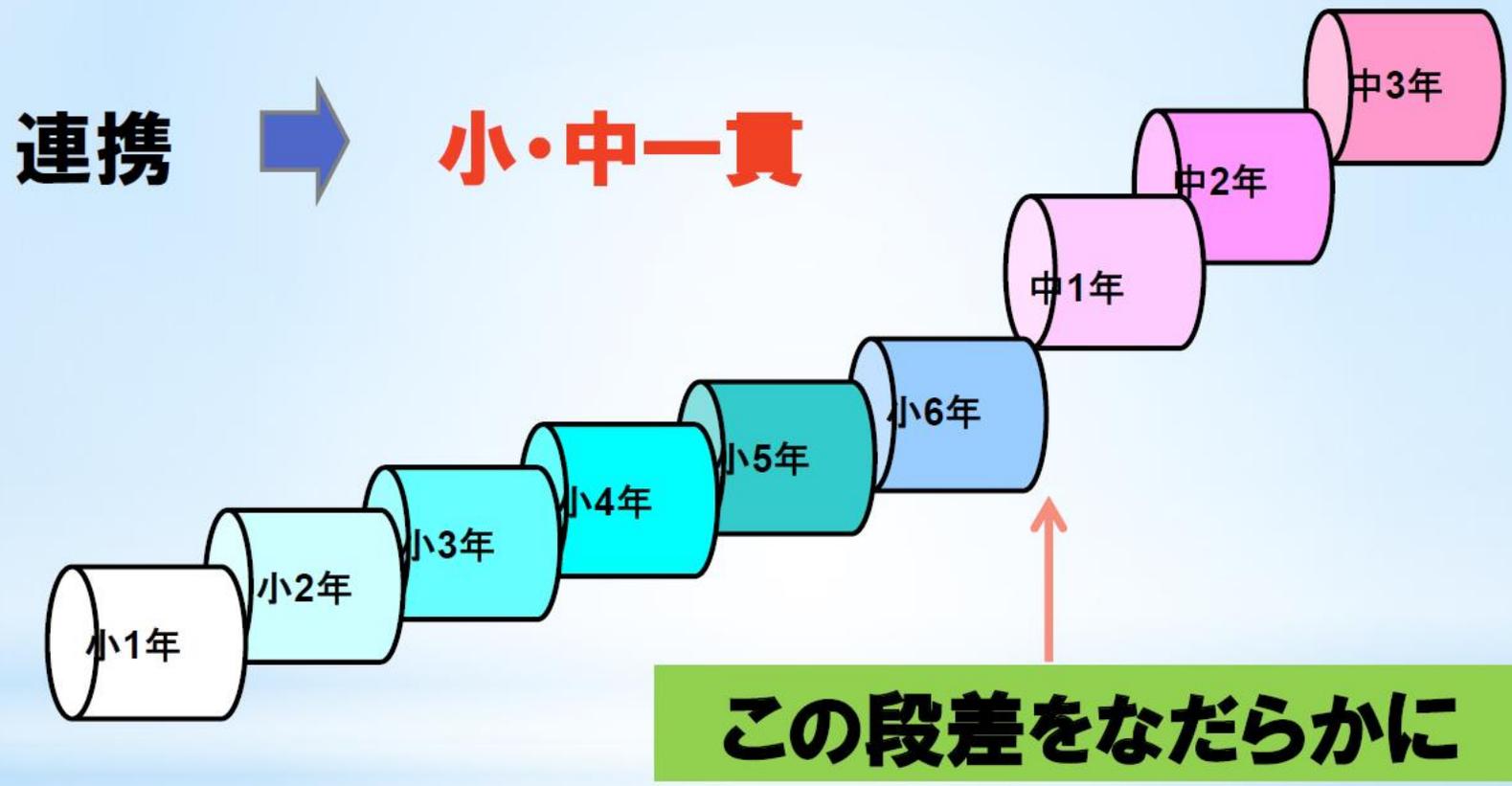
2022年

# 三鷹市の小・中一貫教育校の基本方針

- 既存の小学校・中学校を存続させた形で
- コミュニティ・スクールを基盤として
- 義務教育9年間一貫したカリキュラムで



# 円滑な接続を・・・

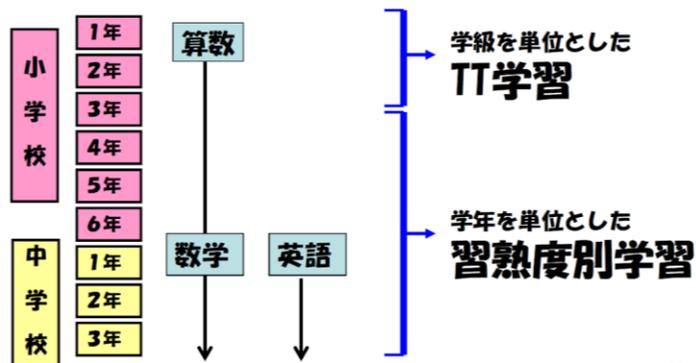


【全国的な課題】

- ・子どもたちの学習意欲の低下や家庭での学習習慣の未定着
- ・つまずきをかかえたままでの進級・進学
- ・学年進行とともに増大する不登校など

## 特徴1 少人数指導・習熟度別学習

### 9年間を通した系統指導

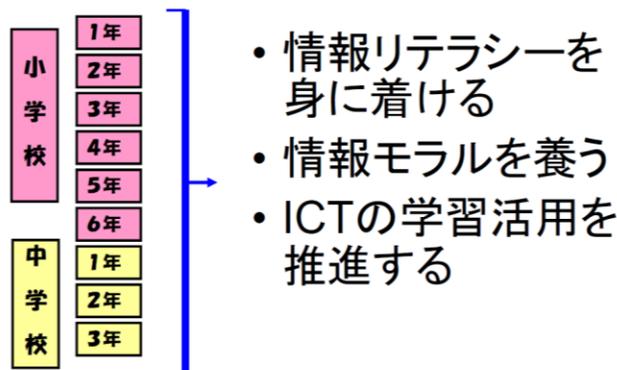


35

## 特徴2 ICT教育の充実

## ICT教育の充実

### 9年間を通した系統指導

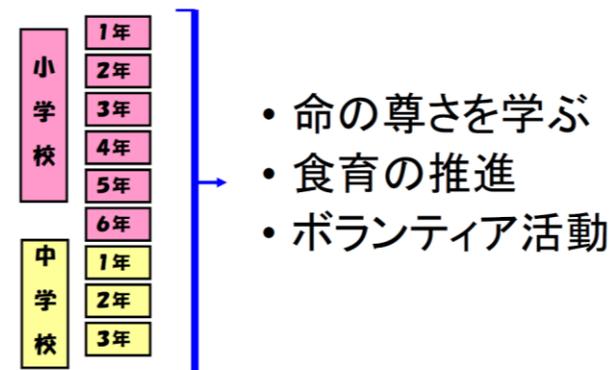


36

## 特徴3 心と体の健康づくり

## 心と体の健康づくり

### 9年間を通した系統指導

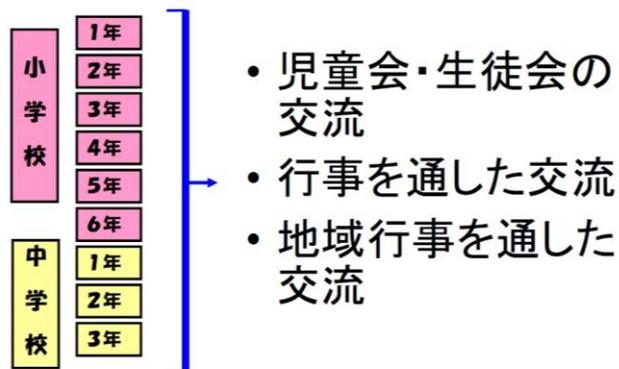


37

## 特徴4 児童生徒の交流

## 児童生徒の交流

### 1つの学園の仲間

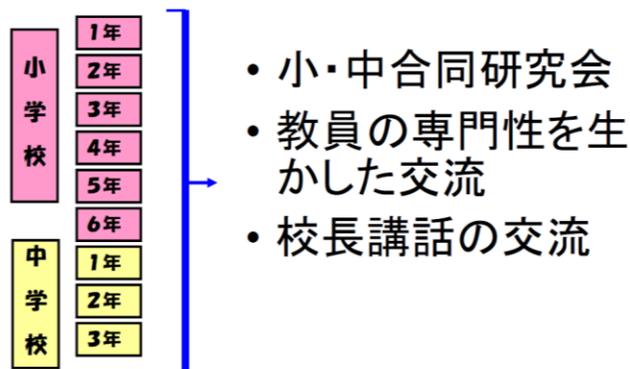


38

## 特徴5 教員の交流

## 教員の交流

### 9年間を見通した指導

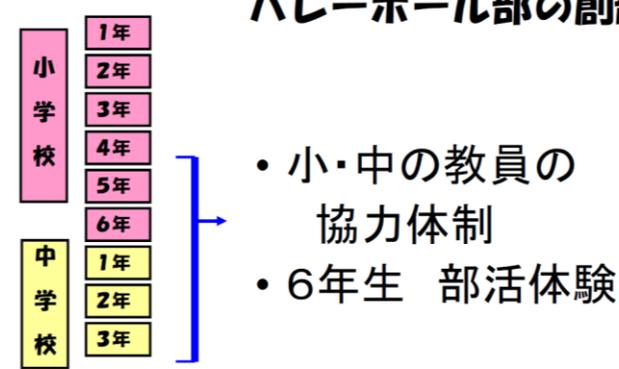


39

## 特徴6 部活動の活発な運営

## 部活動の活発な運営

### バスケットボール部・バレーボール部の創部



40

# 各学校の特徴による距離



一小:情報教育



六中:ボラン  
ティア活動



北野:算数少人数

## 開園前(平成19年当初)の状況

	一小	北野小	六中
一貫カリキュラム	×	×	×
少人数指導・習熟度別学習	△	○	×
教科担任制	△	○	○
英語活動	○	△	△
ICT学習	○	×	×
生き方・進路指導	×	×	△
選択制学習・選択教科	×	×	△

## 開園後（平成20年度末）の状況

	一小	北野小	六中
一貫カリキュラム	○	○	○
少人数指導・習熟度別学習	○	○	○
教科担任制	△	△	○
英語活動	○	○	○
ICT学習	○	○	△
生き方・進路指導	△	△	○
選択制学習・選択教科	△	△	△

## 主な取り組み

- ・**学園としての教育課程**編成・届出・実施・カリキュラム
- ・**学園章と学園歌**
- ・**学園行事**
- ・**小学校と小学校の交流**
- ・**小学校と中学校の交流**
- ・**教員の相互乗り入れ授業**
- ・**小学校からの外国語活動**
- ・**小学校における教科担任制の導入**
- ・**部活動体験 小学校教諭による部活動指導**
- ・**学園研究による小学校・中学校教員合同の研修**  
.....他



小学校2校合同自然教室

# 三鷹市小・中一貫教育校 算数・数学 単元系統配列一覧表



三鷹市小・中一貫教育校 算数・数学 単元系統配列一覧表

	数、量、図形などの感覚を養うとともに、思考力、判断力及び表現力の素地を培う時期				より一層抽象的な概念の構築を図り、思考力、判断力及び表現力をはぐくむ時期			様々な事象に対する数理的な考察・処理する能力や思考力、判断力及び表現力を伸ばす時期		
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	中学校第1学年	中学校第2学年	中学校第3学年	
量と測定				角の概念、角の大きさの変化と回転の関係 ↓ 角の大きさの単位「度」 ↓ 角度の測り方、かき方（分度器） ↓ 角度の概念						
図形	直線、曲線の書き ↓ 直線の概念 ↓ 三角形、四角形の書き ↓ 身の回りにあるいろいろな形 ↓ 三角形、四角形の概念 ↓ 〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇形作り ↓ 〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	直線・平行と四角形 ↓ 〇直線・平行の概念 〇直線・平行のかき方 〇台形、平行四辺形、ひし形の概念、性質、かき方 ↓ 〇直線・平行の概念 〇直線・平行のかき方 〇台形、平行四辺形、ひし形の概念、性質、かき方	多角形や正多角形 ↓ 〇多角形の概念 〇対角線の概念 〇同位角の性質	〇多角形の概念 〇対角線の概念 〇同位角の性質	〇多角形の概念 〇対角線の概念 〇同位角の性質	〇多角形の概念 〇対角線の概念 〇同位角の性質	〇多角形の概念 〇対角線の概念 〇同位角の性質	
図形	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角	〇正方形、長方形、直角三角形 ↓ 平面図形を構成する要素の素地 ↓ 〇頂点、辺、面 直角

凡例 → : 無関係の連続のために前後の系統性を特に重視して連携する単元系統    ⇨ : 既習事項を生かし連携する単元系統    ⇄ : 重複に留意し、スパイラルに学習し定着を図る単元系統

# 小学校教員と中学校教員による 相互乗り入れ授業

授業交流①(★印)  
小→中へ

	月						火					
5-1	図	図	国	体外	算	ク・委		理	★音	国	☆算	E
5-2	理	理	E	国	算	ク・委	★図	★図	国	社	☆算	体外
5-3	国	音	図	図	算	ク・委	国	社	理	理	☆算	学
5-4	体外	国	理	理	算	ク・委	音	国	図	★図	☆算	社
6-1	☆家	家	☆算	E	理	ク・委	体内	音	国	算	総合	総合
6-2	学	体外	☆算	音	E	ク・委	☆家	☆家	体内	算	総合	総合
6-3	国	道	☆算	理	音	ク・委	☆図	体内	学	算	総合	総合

教科担任制(網掛)

授業交流②(☆印)  
中→小へ

授業交流③(総合)  
小小の交流

# 相互乗り入れ授業

## ○後補充補助教員の配置 (市費負担 非常勤講師)

講師配当時数

週1 1時間×40週×22校＋交通費＋共済費

平成28年度年間予算

22,437,000円

(氏名)	三鷹 一郎
(所属)	
(発令内容)	<p>東京都三鷹市公立学校教員に任命する</p> <p>東京都三鷹市立第七中学校教諭を命ずる 兼ねて東京都三鷹市立大沢台小学校教諭を命ずる 兼ねて東京都三鷹市立羽沢小学校教諭を命ずる</p> <p>教育 級 号給を給する</p> <p>ただし任用期間及び兼務期間は 平成22年4月1日から平成23年3月25日までとする</p>
	平成 22 年 4 月 1 日
発令権者	東京都教育委員会

本市の全ての教員が  
学園内の小・中学校  
の教員として

**兼務発令**  
されています

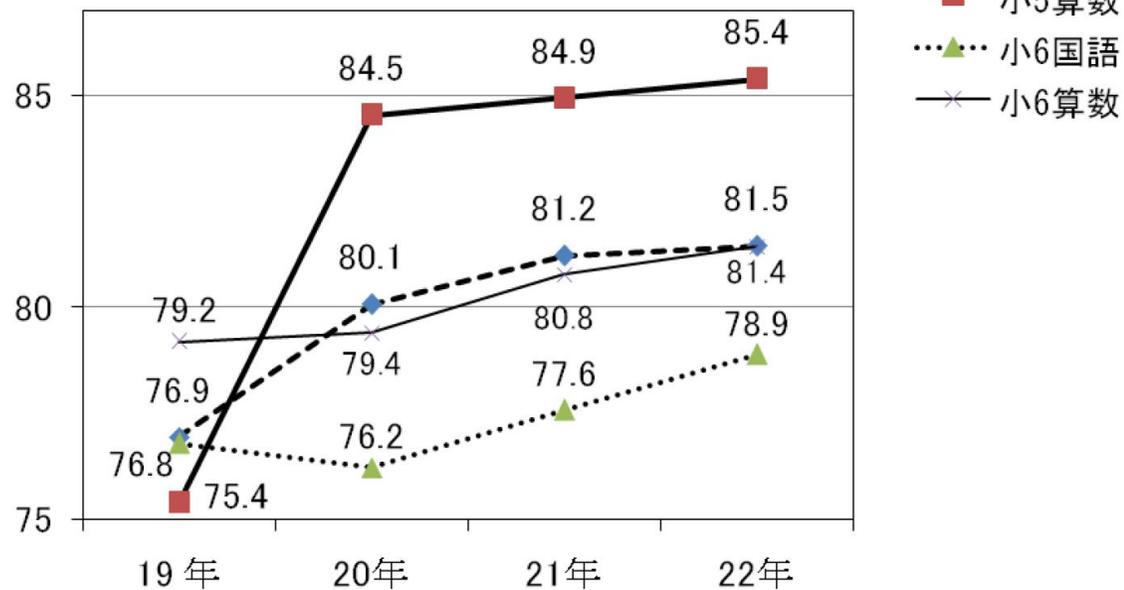
発令権者は  
**東京都教育委員会**  
です

**成果：小・中学校教員の授業交流が  
児童・生徒に安心感をもたらし、  
学習意欲の向上につながった。**

**成果：小・中学校間の交流は  
児童に中学校へのあこがれと期待を  
生徒に自己有用感をもたせた。**

## 学力(小学校)

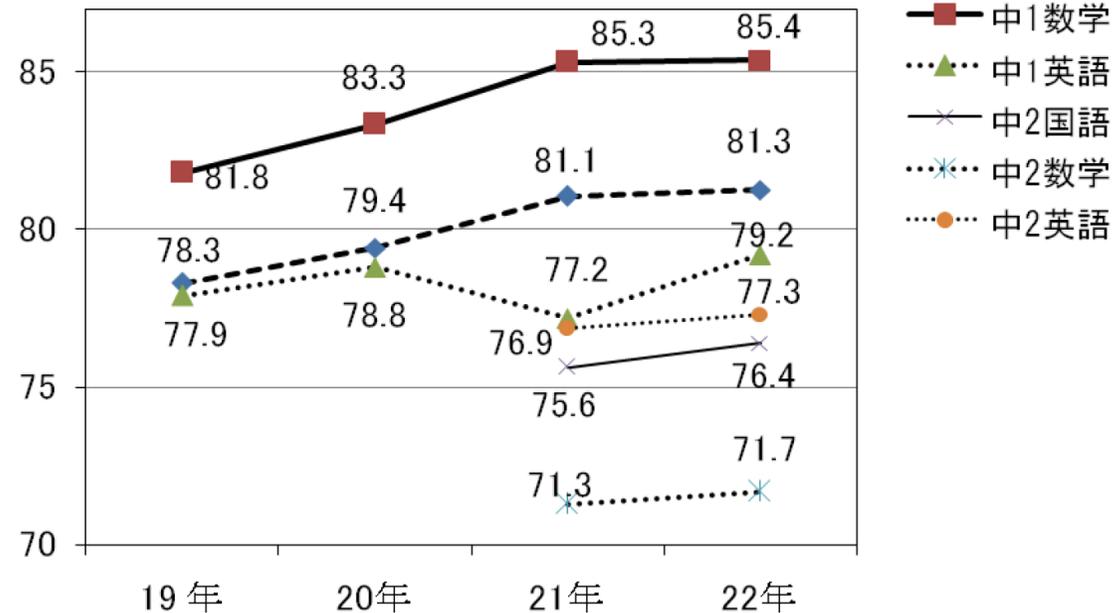
市学習到達度調査 小5・6 平均正答率 (%)



↑  
開園

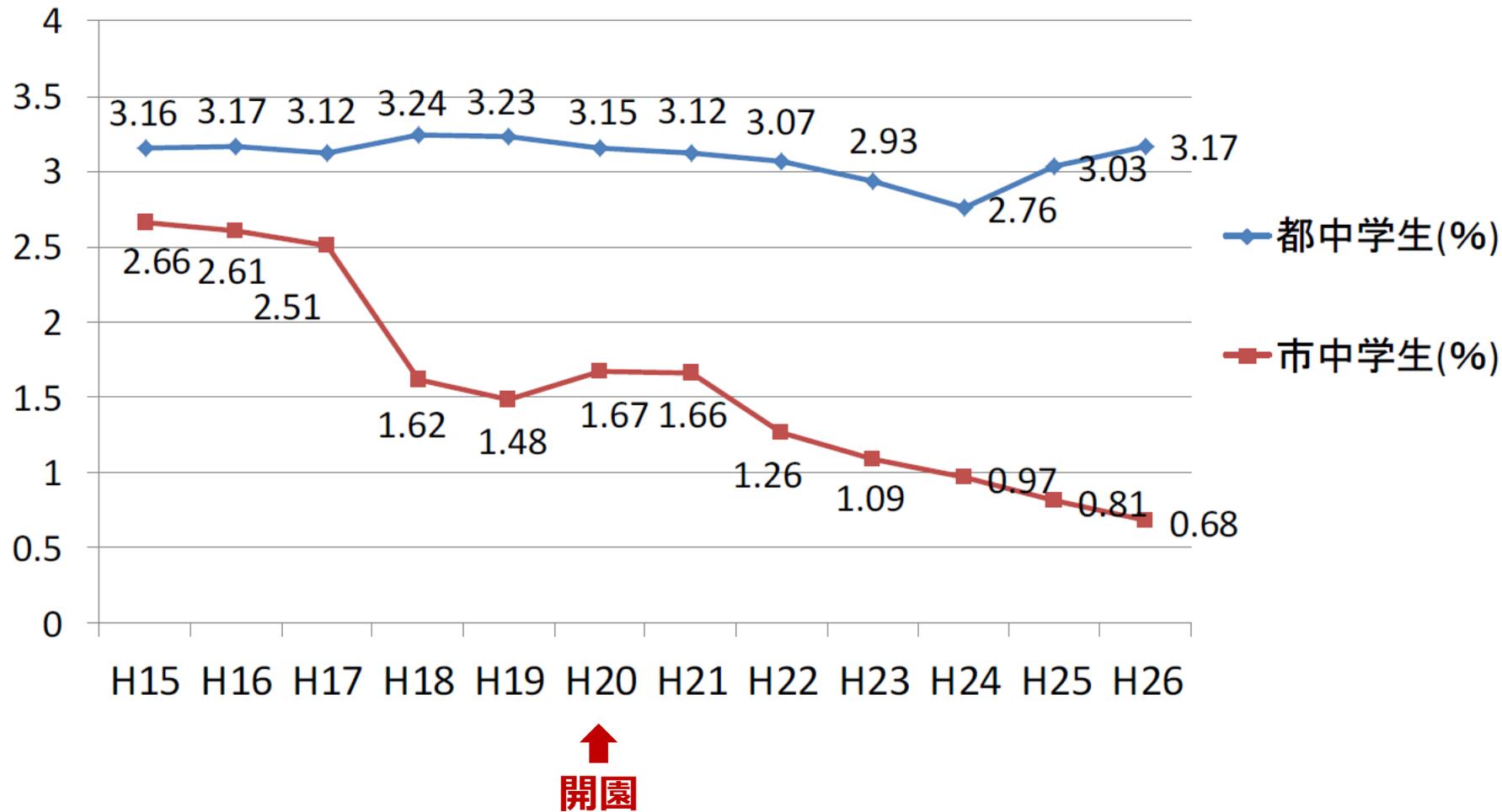
## 学力(中学校)

市学習到達度調査 中1・2 平均正答率 (%)

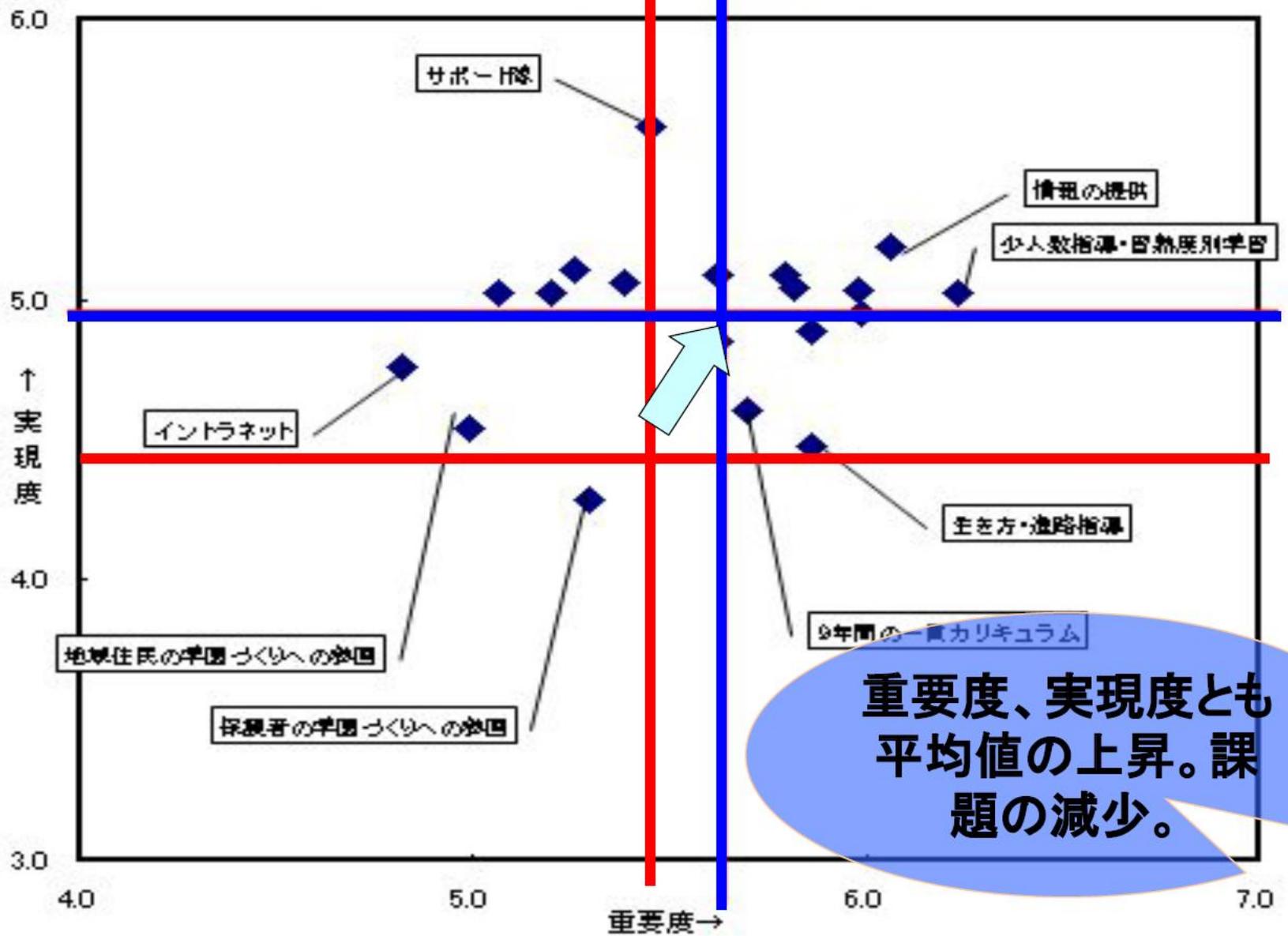


↑  
開園

# 中学生の不登校出現率



【平成19年度:保護者による学校評価】(学園について)



重要度、実現度とも  
平均値の上昇。課  
題の減少。



# 全学園集会

1800人の子どもたち

# 9年間の責任を果たせる学園となる



そこにはたくさんの可能性がある

## 事前にいただいたご質問

### 小・中の連続性を踏まえた 教育の内容

## 乗り入れ授業の実施対応

- 学園で30時間
- 専任教員が担当
- 後補充講師（市の予算）
- おおさわ学園今年度は 数学と英語
- 事例報告へ
- 正直 課題は多い

## 学園名・学園長・制服の在り方検討

- 学園名 各学園において決定  
にしみたか・・・児童生徒地域保護者アンケート  
学園歌、学園章・・・児童生徒
- 学園長 三鷹市教育委員会から指名 辞令
- 制服  
にしみたか開園時には小学校も制服をとという意見も  
体操着、水着等は継続して使用できるように  
業者の違いで難しい面も

## 分離型小・中一貫教育を実践して見えてきた学校運営上の課題、教員の負担感

- 小・中文化の違い
- 開園当初は大変でした
- 一緒に研究することで・・・しかし研究の多さ ニーズの違い
- 離れている距離
- 情報は瞬時に 移動は時間が 打合せ
- 生活時程の違い 部活動や夕会 朝打合せ
- 9年間の学習等のつながり 成長を長い目で  
15歳の姿に責任

## おおさわ学園の乗り入れ授業の状況（R4.7.5確認）

### ○乗り入れコマ数

- ・ おおさわ学園の乗り入れコマ数は、小中トータルで月に30コマ。  
第七中学校 ⇒ 羽沢小・大沢台小あわせて13コマ  
羽沢小・大沢台小 ⇒ 第七中学校あわせて17コマ
- ・ 第七中学校から小学校への乗り入れ教科は英語と数学。  
英語 8 コマ・数学 5 コマ（このコマ数を 2 小学校でシェア）

### ○乗り入れ指導の内容

- ・ 小 ⇒ 中への乗り入れは、小学校の教員はT2として、中学校教員の指導方法を学んだり、アシスタント的な役割を担うケースが多い。
- ・ 中 ⇒ 小への乗り入れも、中学校教員はT2となるケースが多い。
- ・ 教材研究は乗り入れを受ける学校側が行い、乗り入れを行う教員と情報共有する。  
（乗り入れを行う教員は、教材研究までする時間は持てない）

## ○乗り入れを行う教員と後補充非常勤

- ・ 第七中学の場合、乗り入れを行う教員は、担任を持っている教員もいる。ただし、校務分掌や授業時数を軽くしており、業務量の平準化を図っている。
- ・ 後補充非常勤は週11時間、月に40時間強の雇用が可能で、第七中学は、OB・OGの教員が非常勤として指導にあたっている。
- ・ 中学校教員が小学校へ13コマ乗り入れる場合、移動時間含め後補充は20コマ程度必要になる。その他の時数は教材研究などにあてている。

## ○課題

- ・ 児童生徒への指導の継続性という点で課題がある。  
(例) 中⇒小への乗り入れを行う教員の場合
  - ・ 本来は、中学校の生徒を継続的に指導したいが、単元の途中で後補充非常勤に任せざるを得ないこともある。
  - ・ 小学校への乗り入れ時数が限られるため、児童と多少の関係づくりはできても、児童の特性に応じたきめ細かな指導はできない。
  - ・ 教材研究も小学校教員が行うため、高度化する内容に中学校の教科担任が専門的な指導を行うという域までは達しない。

# Appendix

## 教育委員 4 名のまとめ

- 三鷹市おおさわ学園は、6-3制ながらカリキュラムの再構成と乗り入れ授業で小中の連続性と一貫性を高めていることがわかった。
- 乗り入れ授業が特徴的であり、ひと月30時間のコマ数配置のために学校行事をそろえ、45分授業と50分授業をそのままにして、その5分差を最大限活用している。
- CSを基盤とした地域力もさることながら、三鷹市全体で乗り入れ授業のために約2,243万円を予算化し、後補充費も市が負担するなど、行政支援も重要であることがわかった。
- 地域力を最大限活用すること、カリキュラムの工夫と乗り入れ授業の仕組みを教育行政で支えることは、二宮町が目指す施設一体型小中一貫校構想にも大いに参考になるものと感じた。